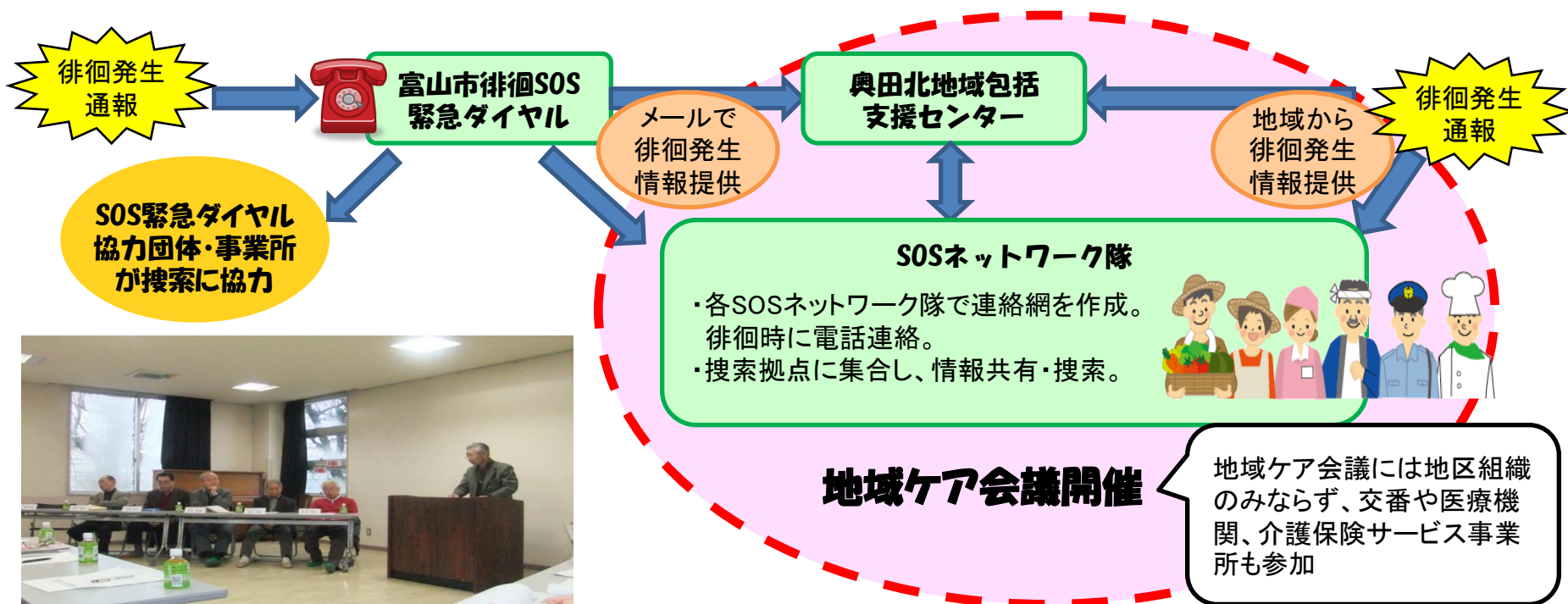


認知症になっても安心して暮らせる まちづくり(奥田北地区)

- 地域において徘徊のある認知症高齢者を早期に発見し、事故を未然に防ぎ安全で住みよいまちづくりを目的に地域住民が中心となり、平成21年奥田北地区初のSOSネットワーク隊が中島町内で結成。
- 現在3町内でSOSネットワーク隊が活動中であり、徘徊発生時の隊員間の伝達方法や対応について地域ケア会議で検討。

《奥田北地区における徘徊SOSネットワーク》



地域包括ケアシステム構築に向けた取組事例（様式）

①市区町村名	富山市		
②人口（※1）	322,059人（平成25年3月末現在）	（ 8,253人 ）	
③高齢化率（※1） （65歳以上、75歳以上それぞれについて記載）	65歳以上 26.1% 75歳以上 12.8%	（ 30.3% ） （ 15.5% ）	
① 取組の概要	徘徊のある認知症高齢者を早期に発見し、事故を未然に防ぐため地域住民が中心となり、SOSネットワーク隊を結成。現在3町内でSOSネットワーク隊が活動中であり、地域ケア会議（徘徊SOSネットワーク会議）を開催し、徘徊発生時の隊員間の伝達方法や役割分担、対応について検討している。		
⑤取組の特徴	徘徊発生時の捜索を地区単独で行うSOSネットワーク隊の結成は富山市内でも初の組織である。SOSネットワーク隊の活動について地域ケア会議（徘徊SOSネットワーク会議）で広く周知することにより、他町内でもSOSネットワーク隊結成の意識向上につながり、3町内の結成に至る。また会議には地区住民だけでなく、医療機関や交番、介護保険サービス事業所も参加することで、連携強化につながっている。		
⑥開始年度	平成20年度		
⑦取組のこれまでの経緯	平成20年6月にある町内において徘徊が頻繁な方が発生し、地域ぐるみで認知症・徘徊高齢者の支援体制を整備する必要性があり、平成20年11月に地域包括支援センターが町内へ捜索ネットワーク構築の協力依頼を行う。数回の事前協議を得て、平成21年1月中島SOSネットワーク隊が結成される。これらの活動を受け、平成21年8月に第1回徘徊SOSネットワーク会議を開催し、他町内にもネットワーク化を呼び掛ける。平成22年6月には粟島町SOSネットワーク隊が結成、平成23年10月には千代田町・下新北町一区SOSネットワーク隊が結成される。		
⑧主な利用者と人数	利用者：徘徊のある認知症高齢者 24人 協力者：SOSネットワーク隊員 140人		
⑨取組の実施主体及び関連する団体・組織	実施主体：地域包括支援センター 関連団体：自治振興会、社会福祉協議会、長寿会連合会、民生委員児童委員、福祉推進員、防犯パトロール隊、交番、自主防災会、医療機関、サービス提供事業所、居宅介護支援事業所、市役所		
⑩市区町村の関与（支援等）（※2）	市より地域包括支援センターへ事業を委託。 （認知症高齢者見守り支援事業委託料 月額20,000円×12カ月＝240,000円）		
⑪国・都道府県の関与（支援等）（※3）	認知症高齢者見守り支援事業 国庫支出金 6,083,000円 県支出金 3,042,000円		
⑫取組の課題	町内毎のSOSネットワークの構築 隊員となる後継者を育成し、SOSネットワーク隊を継続すること		
⑬今後の取組予定	「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」を目標とし、全ての町内においてSOSネットワーク隊の結成をはかり、奥田北校区全体でのネットワーク構築をはかる。医療機関やサービス事業所、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターがさらなる連携をはかり、情報を共有することで専門機関としての役割をより発揮する。		
⑭その他			
⑮担当部署及び連絡先	福祉保健部 長寿福祉課 (Tel076-443-2150)		

※1 一部地域に限定した実施の場合は、当該地域の人口・高齢化率を（ ）内に記載してください。

※2 市町村から財政的支援が行われている場合には予算額等を含めて記載ください。

※3 国や都道府県から財政的支援を受けている場合は、補助金や交付金等の名称、額等を含めて記載ください。

もし、私が認知症に
なったら…

私ってどうなるの？

自宅で暮らしていけないの？

認知症になっても安心して暮らせる まちづくりを目指して



認知症の方や家族を応援し、
地域であたたかかく見守って
いただける団体や事業所に
配布しています。

富山市認知症高齢者見守りネットワークステッカー

<担当>

地域包括支援センター

担当者

TEL

FAX

富山市役所 長寿福祉課

TEL 443-2150

FAX 443-2180

富山市

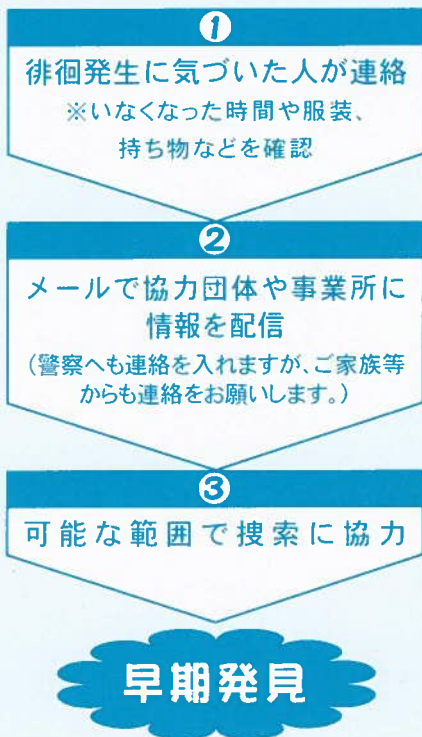
徘徊高齢者の早期発見のために 徘徊SOS緊急ダイヤルに登録しませんか？

**事前の登録が
必要です**

徘徊に気づいた人が専用のダイヤルに連絡すると、市内400以上の協力団体（警察、消防、公共交通機関、介護保険事業所等）へ、徘徊情報をメールで配信し、可能な範囲で捜索に協力しています。

対象者：市内在住で認知症による徘徊のおそれのある方
料 金：無料
申請窓口：市役所 長寿福祉課、各総合行政センター担当窓口、地域包括支援センター

徘徊発生から発見まで



特徴

24時間365日

看護師や介護福祉士等の
専門スタッフが対応

市内400以上の協力
団体に情報を配信

徘徊発生から通報までの
時間に応じてエリアを
分けて配信



※この事業は地域の団体や事業所等のご協力により行うものであり、確実に保護できるものではありません。

ぎていませんか・・・

を抱え込まないために・・・

包括支援センターや医療機関に相談
の人の協力を得ましょう
いろいろなサービスを利用しましょう
経験をもつ仲間（家族会）と交流しましょう



【その他の相談機関】

- 富山県高齢者総合相談センター
 - 認知症ほっと電話相談（土・日 午前9時～午後5時）
ろうごはれ
☎ 4 3 2 - 6 5 8 0
 - 健康・介護相談（火～金 午前10時～午後4時）
よい シルバー110番
☎ 4 4 1 - 4 1 1 0
- 認知症の人と家族の会（富山県支部）
（月・木 午後1時30分～午後3時30分）
☎ 4 4 1 - 8 9 9 8

地域みんなの理解と あたたかい見守りが大切なカギです

85歳以上の4人に1人が認知症とされています。認知症は誰にでもおこる可能性のある病気です。認知症は、記憶力の低下を中心として「暴言」「徘徊」「妄想」等の症状が起こる場合もありますが、支えてくれる人や安心できる場所があれば、自分らしく地域で暮らしていくことができます。

みんなで
支えましょう

地域包括支援センターでは、認知症の専門知識をもった「認知症コーディネーター」が、認知症の方、徘徊がある方等に民生委員児童委員や長寿会・町内会等、ご近所の方と協力し、身近な地域で見守り支援をしています。

ごみ出しの
お手伝いをします。

ボランティア



あわてないでゆっくりどうぞ。

よく行くスーパー等



ケアマネジャー等

町内等

民生児童委員 長寿会等

家族

開じこもらないよう
お誘いします。

ふれあいサークル



認知症
高齢者

「元気ですか?」と
声がけします。



近所の声がけ

一緒に
出かけませんか。



警察官

介護をがんばりすぎず

家族だけで
抱え込まず
相談してください



いつまで続くのが、先が見えないのが介護の難しいところです。

“がんばる人”ほど、介護の負担を一人で抱え込み、心身ともに疲れ果ててしまう傾向があります。

がんばりすぎず、地域包括支援センターや地域の方に相談してください。

介護

- ① 地域
- ② 周囲
- ③ い
- ④ 同

町内・企業・学校・老人クラブなどで… 認知症について正しく学びませんか？

認知症サポーター 養成講座

認知症ってどんな病気？認知症の方にどう接すればいいの？
認知症って…。

認知症について正しく知り、認知症の方や家族をあたたくく
見守る認知症サポーターになりませんか？

担当地域の「認知症キャラバン・メイト（講師）」が自治公民館
や職場、学校等に伺い、認知症についてわかりやすくお話しします。

サポーター養成講座のカリキュラム(例)

認知症サポーター100万人キャラバンとは	15分
認知症の症状とその対応	30分
認知症の人と接するときの心構え 介護者の気持ちを理解する	30分
認知症サポーターとは 認知症サポーターのできること	15分

講座修了者には認知症サポーターの目印である「オレンジリング」をお渡しします。



オレンジリングをかかげる
元気会のみなさま

認知症になっても 安心して暮らせるまちづくり…

私たちも 応援しています

認知症の方に優しく接したり、困っている方があられたらお手伝いをしてくださるお店、認知症について積極的学んでいただける団体や事業所等を募集しています。



平成22年3月末現在
417の事業所や団体に登録いただいています。

富山市認知症高齢者見守り支援事業実施要綱

(目的)

第1条 本事業は、認知症高齢者が安心して住み慣れた地域で暮らせるよう地域で見守り体制を築くとともに、早期発見、早期対応のシステムを構築することを目的とする。

(実施主体)

第2条 本事業の実施主体は、富山市とする。ただし、事業の運営の全部又は一部を適切な事業運営が確保できると認められる社会福祉法人、医療法人及び民間事業者等に委託するものとする。

(事業内容)

第3条 本事業の内容は、次のとおりとする。

(1) 富山市認知症高齢者見守りネットワーク会議の開催

認知症になっても、地域で安心して生活していける社会を実現するため、警察や消防等の公的機関、民生委員児童委員等の地域団体、鉄道等の民間企業を交えた会議を開催する。

(2) 認知症コーディネーターの配置

地域における認知症高齢者見守り支援事業全体をコーディネートし、関係者と協力しながらより連携の取りやすい体制を整えるため、認知症コーディネーターを配置する。

(3) 徘徊 SOS ネットワークの構築

認知症による徘徊高齢者の見守りや早期発見・早期対応を行うシステムを構築する。

(4) 認知症高齢者相談窓口の開設

地域包括支援センターに認知症高齢者相談窓口を開設し、地域住民等からの相談を受ける。

(5) 地域における認知症高齢者の見守り支援

地域から寄せられる相談について、主治医や関係機関と連携をとりながら、近隣住民や友人、知人と協力し見守り支援を推進する。

(6) 認知症地域説明会

地域包括支援センターが、地区単位で地域住民を対象に認知症についての啓発活動を行う。

(7) 認知症実践的事例会議

地域包括支援センターの社会福祉士等が中心となり、概ね3カ月に1回、サービス事業者等と認知症のケアについて、事例を通して実践的な検討を行う。

(8) 認知症基礎研修会

認知症のケアの知識と技術を習得するための研修会を開催する。

(9) 認知症でも暮らせるまちづくりの実施

地域包括支援センターが中心となり、地域の関係機関や地域密着型サービス事業所を始めとする介護保険事業所等とともに地域の認知症高齢者が安心して暮らせるよう、地域住民への啓発活動や徘徊対応等についての検討を行う。

(10) その他事業の推進に資する事業

2 事業の実施目的は別に定める。

(その他)

第4条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

この要綱は、平成20年1月4日から施行する。

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

地域住民がお互いに支え合い助け合い、 安心と笑顔が広がる『月岡』を目指して

- 地域住民からお互いに支え合う必要があるとの意見を受けて、平成19年度より独自で年2～3回会議を開催し、平成24年度より地域ケア会議として開催している。
- 今後、地域のテーマを『何かしよう！ 見つけよう』と設定。
- 地域ケア会議の効果：会議の積み重ねが地域と地域包括支援センターとの顔の見える関係、連絡体制の強化へ。
- 今後のねらい：地域住民の力を表出し、地域力としていく。

月岡地区における地域ケア会議

地域ぐるみの
大会議(年3回)



町内単位の
小会議



《特徴》

- ・地域主体！地域包括支援センターはコーディネーター。
- ・会議開催前にこれまでの取り組みの効果を含め、地区診断し、今後の活動を考える手立てとしている。

《地域ケア会議の取り組み～ボランティアを例に～》

【地域の課題】

地域住民の多くはボランティアは大変なことと認識。

【地域ケア会議の目的】

ボランティア活動は誰でも簡単にできることだと知ってもらう。

【地域ケア会議での取り組み】

町内単位の小会議を開催。ボランティア活動を周知するとともに、地域住民にアンケート調査を実施。ボランティア活動に協力可能な人材を把握し、名簿を作成。

【ボランティア例】

- ①趣味や特技を活かした活動(スポーツ等の指導等)
- ②外出支援活動(買い物同行、行事等の送迎等)
- ③在宅訪問活動(話し相手、ゴミ出しの援助等)